

社会人大学院の未来

天野 郁夫
(国立大学財務・経営センター)

1. 専門職大学院制度の発足

- 司法制度改革と法科大学院構想
- 専門大学院から専門職大学院へ
- 二元的大学院制度への移行
- 残された曖昧さ
 - ・アメリカ・モデルとの違い
 - ・一般大学院と専門職大学院の関係
 - ・専門学部制の問題 学部・大学院関係

2

2. アメリカ型の大学院制度

- 研究大学院と職業大学院の二元構造
- カレッジ制と専門職業教育
- プロフェッショナル化の社会
- 専門職団体と職業大学院
- モデルとしてのロースクール・メディカルスクール
- アメリカ独自のビジネススクール
- 専門職業としての経営

3

3. 日本型の大学院制度

- アメリカ・モデルの大学 / 大学院改革
- 修士・博士の二層構造
- 修士課程の職業大学院化構想
- 専門学部制の存続と大学院の学部依存
- プロフェッショナル化の遅れ
- 象徴としての医師と法曹の養成システム
- 例外としての理工系修士課程
- プロフェッショナル・スクールのモデル不在
- 未分化の教育目的 大学教員・研究者・専門職業人

4

4. 専門職業人養成と大学/大学院教育

1) 技術系(工・農)

- 学部と大学院(12万人と3万人)
- 学部との連続性 新卒中心・フルタイム
- 修士課程の事実上の職業大学院化
- 研究者養成との境界の曖昧さ
- 研究室制と教育指導体制
- 工学・農学と理学 修士と博士
- 中途半端な実践性

5

2) 医療系(医・歯・薬・看護・獣医)

- 6年制の専門学部(医・歯・獣医と薬)
- 看護 大学院志向か
- その他のコメディカル 学部化志向と4年制専門学校
- 医系大学院は職業大学院か
- メディカルスクール構想の未成熟
- 医学部の学士入学枠

6

3) 法曹系(法・行政)

- 国家試験による法曹養成
- 法学部のマンモス化と教養教育化
- 予備校の法曹養成機関化
- 司法制度改革とロースクール構想の浮上
- 法科大学院の衝撃 初のプロフェッショナル・スクール
- 法学部の存在 法科大学院の予備校化か
(4万人と6千人)
- 資格試験と選抜試験 司法浪人の発生か
- 玉突き現象としての行政系大学院 公務員制度との関係
- 法学大学院と法科大学院

7

4) 人間系(教育・保育・心理・福祉・栄養)

- 学部段階の専門職業教育
- 開放的な資格制度 専門職業性の曖昧さ
- 半専門職・準専門職からの脱出か
- 発展途上の専門職業人
- 教育系専門職業大学院構想の浮上

8

5) ビジネス系(商・経営)

- MBA・MOT・公認会計士
- グローバル化するアメリカのビジネススクール
- MBA 伝統的専門職業との違い
- 専門性の問題 技術より文化か
 - ・企業の人事政策との関連
 - ・教育訓練の外部性と内部性
 - ・日本的経営と内部昇進制
 - ・組織に埋め込まれた知識・技術

9

- 社会科学系大学院の未発達(付表参照)
 - ・経営学・商学大学院は職業大学院か
 - ・経営・商学部は専門学部か
- 日本のビジネススクール(専門職大学院)
 - ・急増する専門職大学院と質の問題
 - ・国際的な競争と評価
 - ・雇用機会はあるのか

10

付表 修士号取得者の専攻分野構成

専攻分野	日本	米	英	仏	独
人文	9.3	9.6(0.9)	8.5	25.0	-
社会	13.7	37.6(6.9)	34.7	38.5	-
理	9.4	2.7(-)	9.6		-
工	44.3	8.8(-)	8.5	28.0	-
農	6.0	0.8(-)	0.7		-
医・保健	4.7	14.6(6.6)	5.9	7.9	-
教育	7.5	23.5(-)	24.3	-	-
その他	5.1	2.4(0.1)	7.8	0.6	-
計	100.0	100.0(14.5)	100.0	100.0	-

1) 米の()内は第一職業専門学位号取得者(内数)の割合

2) 独には修士相当学位なし

11

5. 社会人大学院とは何か

- 1) 社会人の入学可能な大学院
 - ・社会人入学枠・入学者選抜の方法
 - 2) 社会人の就学可能な大学院
 - ・授業形態/夜間・パートタイム・通信制・遠隔教育
 - ・モジュール・短期集中
 - 3) 社会人に役立つ大学院
 - ・教育課程・教育内容・教育方法 実践性と高度の専門性
- カテゴリーとしての曖昧さ
 - 文科省の大学院入学者統計
 - 2003年・修士課程 7,233人(9.6%)
 - 1998年・修士課程 3,298人(6.5%)
 - 専門職大学院は社会人大学院か
 - 2003年入学者(572人)の87.4%

12

6. 社会人は何を求めているのか

- 1) キャリアアップ
 - ・ 一段高い学位・資格 (学士 修士、2級 1級など)
 - ・ 技術者 (博士号・MOT)・教員 (専修免許)・
ビジネスマン (MBA) など
- 2) キャリアチェンジ
 - ・ 新しい職への転換 (ビジネスマンから法曹・医師へ)
- 3) 有職者のリフレッシュ
 - ・ 先端的知識・技術の獲得

13

7. 大学院は社会人に開かれているか

- 社会人は何を必要としているのか
 - ・ 職業資格 / 学位 / 職業能力
- 大学院は社会人の学習要求に応えられるか
 - ・ 専門学校と専門職大学院の間
- 入学資格と入学者選抜の方法
- 就学形態と授業形態
- 教育のコスト負担と報酬
- 企業の人事政策は変わるのか

14

8. 社会人大学院の可能性

- 未開拓の教育分野
- 大学院は社会人の必要と要求に応えられるか
- 学歴インフレーションにならないために
 - ・ 教育課程・内容・方法の差異化はどこまで可能か
 - ・ 実務的・実用的な教育はどこまで可能か
- 教育の質の保証は誰がするのか
 - ・ 大学院・評価機関・そして・・・
- 職業のプロフェッション化はどこまで進むか
- 組織の人事慣行はどこまで変わるのか

15